

平成21年度 森プロ事業実績：恵南森プロ

(平成22年3月末現在)

	H19～20年度	H21年度				5カ年	
	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	432	80	39	49%		686	
作業道(m)	1,203	2,000	0	0%	作業路含む	9,200	
間伐等	面積(ha)	192	55	40	73%	利用+切捨	269
	材積(m ³)	2,000	1,380	338	24%		7,140
備考	団地外実績(利用間伐 731ha、搬出材積 9,503m ³ 、作業道開設 6,927m)						

H21年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)

2,000 円/m³

施業集約化の状況

- ・生産森林組合等地元協力者から成る推進員を設置し集約化。

施業プランの活用状況

- ・生産費データの検証が不十分なため、単価設定出来ず。プロジェクト中の活用予定なし。

施業プランナー等の養成状況

- ・地域の総合的プランナー:1名
- ・中核的な森林技術者:1名(H21実績)
- ・施業プランナー:2名(H19,20実績・うち1名は第2森プロチームリーダーに従事)
- ・作業道オペレーター:1名(H20実績・山岡町久保原団地のチームリーダーに従事)

作業道の状況

- ・車両系作業システムの実施及び架線集材エリアを拡げるため作業道を開設。
- ・機械の規格、採算性、傾斜、土質、維持管理を考え、道幅は3.0～3.6m。
- ・路盤は鈹質分の多い土に入れ替える。開設時に発生する表土を法面に散布し緑化を促進。
- ・開設後の補修管理を考えると、開設費用は6,000～7,000円/m必要。
- ・研修と実践により開設・補修・管理方法を試行錯誤しつつ地域に合った開設方針を構築中。
- ・所有者からの承諾が得られず既設林道から基幹作業道の開設が出来ず、事業計画を大幅に下回る開設実績となった(H20年度)。
- ・既設林道(ババラギ線)を延長し、基幹作業道の開設を計画していたが、開設費用が想定外の金額となったため、開設を断念。平成21年度は、林道沿いを中心に木材生産したため、開設実績はなし。

<モデル団地外>

作業道開設状況(久保原団地)



第1森プロチームが開設中の作業道(W=3.0m)
先山方向への伐倒とボサ刈りを実施。

作業道開設後(久保原団地)



第1森プロチームが開設した作業道(W=3.0m)
路盤材が乾燥した後、徹底的に転圧を実施。

作業システムの状況

- ・ 資源の循環利用を計画している区域は、作業道の開設と車両系作業システムの実施機会の増大を図る。
- ・ 採算性の低い急傾斜地等は、架線・ヘリ集材により素材生産後、針広混交林(環境林)へ移行。
 - 車両系メインシステム: 伐倒:チェンソー→集材:グラブ・スイングヤーダ(0.45)→造材:プロセッサ(0.45)→小運搬:クローラダンプ→積込・運搬:グラブ付トラック(6t)
 - 21年度メインシステム: 伐倒・枝払:チェンソー→集材:ラジキヤリー→玉伐:チェンソー→集積:グラブ→積込・運搬:グラブ付トラック(6t)
 - ヘリコプター集材システム: 伐倒・枝払:チェンソー→集材:ヘリコプター→造材:プロセッサ→積込・運搬:グラブ付トラック(6t)
- ・ 平成21年度第1森プロチーム(森林2課)木材生産実績
 - 森プロ団地内338m³(うちヘリ集材231m³) / ○森プロ団地外(第1森プロT:1,073m³、組合全体:9,503m³)

ヘリ集材+プロセッサ造材



ラジキヤリー集材



その他

地区座談会の開催



中核的な森林技術者とプランナーが森林所有者に対して今後の取り組みを説明(H21.4.24)。

森林づくりのPR



第1森プロチーム担当事業地(岩村町)にてあすみ住宅研究会と共催で産直住宅イベントを開催(H21.11.22)。

森プロの成果

- ・ 森林所有者に対し木材売上の利益還元を実現。
- ・ 地域の状況にあった作業道開設手法が確立しつつある。
- ・ 森プロのノウハウを活かし、地域プランを全域展開(第2森プロ、久保原団地他)。

今後の課題

- ・ 地形条件等による作業システム選択基準の確立。
- ・ 前述したとおり、基幹道の開設が進まず、プロジェクトの進行に影響が出てきた(基幹道がなければ架線集材すら実施できず、今後も切捨間伐を実施する以外にない)。
- ・ 建設業者等との連携を深め、施工技術及び施工管理能力を身に付ける必要がある。